

# 令和6年度学校経営計画書

校訓

「創造」

学校名 三次市立川地中学校

学校長名 三好 春文

## I 学校の状況

学級数	5学級	生徒数	36名	教職員数	14名
メールアドレス	<a href="mailto:kawachi-j@school.miyoshi.hiroshima.jp">kawachi-j@school.miyoshi.hiroshima.jp</a>				
ホームページアドレス	<a href="http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/junior/kawachi-j/">http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/junior/kawachi-j/</a>				

## II 学校教育目標

川地中学校区小中一貫教育目標 「ふるさとを愛し、高い志をもつ児童・生徒の育成」  
～小中の学びのつながりをベースに～

川地中学校 学校教育目標 「志を高く、主体的に学び、たくましく生きる生徒の育成」  
～「本気・感動・探究・継続」～

## III 使命・存在意義（ミッション）

「自己実現」と「社会へ貢献」する生徒を育てる

## IV 重点事項（ビジョン）

「本気・感動・探究・継続」の姿を認め合う生徒と教職員

川地中で学んでよかった、学ばせてよかった、働いてよかったと思える学校  
めざす生徒像

- 1 自己決定した事に「本気」で向き合い挑戦する生徒
- 2 思いやりを持ち素直に「感動」し豊かに表現する生徒
- 3 なぜを大切に「探究」し仲間と協力して解決する生徒
- 4 計画した事や課題を見つけ「継続」してやりぬく生徒

## V 中心価値・行動規範（めざす教職員像）【キーワード：「認める」「探る」「繋ぐ」】

- 1 豊かな人間性，確かな専門性を有し，教育に対する使命感を發揮する教職員
- 2 教育的な愛情，情熱を土台に，一人一人の生徒に信念をもって向き合う教職員
- 3 教職員同士の連携と協働により，組織的に職務を遂行できる教職員
- 4 社会や子供の変化にしなやかに対応でき，社会に開かれた教育課程を實踐する教職員

## VI 現状と方向性

### 1 学力等について

令和5年度の三次市学力到達度検査結果から，2年生は，全ての教科が全国平均を上回った。そして，基礎の力をみとる問題の正答率は，すべての教科が全国平均とほぼ同じか上回っていることから各教科で身に付けなければならない力はおおむね身に付いている。また，活用する力をみとる問題も同様に，ほとんどの教科が全国平均とほぼ同じか上回っている。正答している生徒の解答を見ると，文法や用語，単語，実験操作など知識に関する力によく身に付いていることが分かる。しかし，必要な情報に着目して内容を解釈することや複数の資料から必要な情報を取り出し整理することが必要な問題の正答率は低く，課題がみられる。この課題はいずれの教科にも共通して見受けられ，文章やグラフ，図などの資料から情報を整理する力の育成が重要な課題としてあげられる。

活用する力の育成にあたっては，単に記憶することや繰り返し機械的に問題を解く学習活動に偏らず，日常生活と関連させて知識を用いることが大切である。また，そのような問題解決の学習過程のなかで，確実な基礎的な内容の習得も図りたい。総合的な学習等で教科横断的な学習場面を工夫する必要もある。またインプットと連動したアウトプットを重視し，表現力を向上させる授業改善等をすすめることが大切である。

### 2 研究推進について

研究主題を「本質的な問いの視点を取り入れた主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」～

学びや仲間とのファシリテートを通して～として、引き続き、問いの精選や精度を高め、主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善を図っていく。また、重点項目を授業改善（単元構想）、基礎的・基本的な内容の習得と定着、宿題及び自学習の改善とし取り組んでいく。

### 3 生徒指導について

生徒の生活実態を見ると、睡眠不足に繋がる不規則な生活（SNS関連）により、不登校傾向や学力への影響が表出している。また、自分の思いや考えを相手に伝えることができず、良好な人間関係を築くことが苦手な生徒がいることから個別の面談を通じた早期の改善と、ソーシャルスキルトレーニング等の実施により継続的に指導を行う。生徒指導規程を周知し、未然防止と初期対応を徹底する。

### 4 小中連携とコミュニティ・スクールについて

目標を「ふるさとを愛し、高い志をもつ児童・生徒の育成」～小中の学びのつながりをベースに～とする。地域と共にある学校の存在を、コミュニティ・スクールとして築き、持続可能な社会の形成者を育成する。取組の重点は次の6点とする。

- ①アウトプットとフィードバックを重視した教育活動の展開
- ②語彙力を向上（語彙シート活用）させ、読解力や思考力や情報を整理する力及びコミュニケーション力を高め表現力を身につけさせる取組
- ③個別最適な学びのためのICT機器の効果的な活用
- ④「学区コミュニティ・スクール構想」と「地域学校協働活動」の推進に向けた取組
- ⑤小中・小小連携による通学への不安解消（円滑な接続）に向けた取組
- ⑥学校備品と予算を効果的に活用し、教育環境の充実を図る

## VII 川地中学校区が目指す資質・能力

<b>主体性</b>	夢や志をもち、継続して自己の向上に努め、将来の生き方について考える力
<b>協働性</b>	他者と関わり、協力して課題を解決したり、自らの考えを広げたり深めたりする力
<b>知識・技能</b>	社会生活との繋がりを考え、各教科等で習得した知識・技能を実生活で生かす力
<b>思考力・判断力</b>	課題解決に向け、必要な情報を活用しながら多様な見方・考え方ができる力
<b>表現力</b>	目的や場面、相手に応じて、調べたことや自分の考え、意見等を説明できる力

## VIII これからの学校づくりと働き方の改革に向けて

- ① 主体的・対話的で深い学びを創出し、個別最適な学びの積み重ねを行う。（強みを生かす）
- ② より効果的かつ効率的な学校経営のために、ICT機器の活用をさらに工夫し促進する。
- ③ 不祥事を根絶し、教育公務員としての職責を果たす。（綿密な情報共有と自他の言動を相互に確認）
- ④ 月上限45時間の実現に向けて、学校が担うべき業務の精選と職務の見直し。
- ⑤ 自他の命を守る判断力と行動力を身につける。（防災教育の充実、課題の未然防止と初期対応の徹底）
- ⑥ 地域と共にあるコミュニティ・スクールの導入に向けた取組。（小中一貫教育と地域・家庭連携を重視）

## IX 川地中学校の特色ある取組

- ① 「すっ語彙」語彙シートの活用（読解力、文脈力を向上させ、表現力を身につける。）
- ② 1人1台のタブレット端末（iPad）と1枚のホワイトボード（MWP）の併用で学習効果の向上。
- ③ OIOfの推進（アウトプット→インプット→アウトプット→フィードバックを重視する教育活動）
- ④ 自学習の取組の推進（自ら課題を見つけ、解決するために「五輪の書」を活用し工夫して取り組んでいく学習。）
- ⑤ 学習タイムの実施（国語・社会・数学・理科・英語のつまづきの早期発見及び基礎学力の定着を図る。）
- ⑥ 和文化の学習（全校生徒による篠笛演奏等による表現活動）
- ⑦ 異年齢交流活動（小中及び地域連携：合同清掃、オープンスクール、防災訓練、サロン交流等）